

第244回 令和8年6月5日（金）

「影響はどのくらいあるのだろうか」

自動車が普及し始めたころ「こんなものが世の中に普及し始めたら人間の足腰が弱ってしまう」といったネガティブな意見がきっと出たのではないかと思います。テレビを見すぎると頭が悪くなるとか、目が悪くなるのかもよく言われていました。事実もちろんあると思いますが、自分では近視の原因は頻度から考えると読書だろうかと推測しています。

とはいえネガティブな影響が少なからずあるのは確かです。私は趣味で1日短時間ですが英会話をアプリで勉強しています。2年近く続けているとリスニングは少し上達しました。でもライティングはなかなかハードルが高いです。考えると英語を聞く場面は日常にたくさんあるけれど英語を書く場面は作りださない限りあまり無いということに気づきます。

みなさんも「日本語を書く」場面が大幅に減っていませんか？難読漢字を読むことはできても書けないということはないでしょうか。これからAIによって文章を作る場面も激減していきます。この影響がどのくらいあるのか、誰にもわかりません。

レジを打つ仕事では昔は「そろばん」でした。やがて数字を打ち込むようになって、現在ではバーコードを読み込ませるだけになりました。想像すればわかると思いますが計算する力を使う場面は年々減り続けています。今は計算が必要な時に暗算はせず、ほとんどの人はスマホを取り出します。

私が子どものころ、遊び道具として祖父がビニール製の怪獣の玩具をよく買ってくれました。小学生になってからは野球場で9人そろって野球などできませんから、空き地で3人や4人そろえて野球で遊ぶ方法を一生懸命考えました。いまは小さい子供も動画でアニメを見たり、アプリやゲームで遊んだりしています。お金を出して少年野球チームに通ったりします。使わなくなった想像力はどうなるのでしょうか。

何かを調べるときに辞書を引くこともなくなりました。英和辞典ならアルファベットの順番、国語辞典なら50音順を頭の中で組み立てながら辞書を引きました。いまはAIに聞けば答えてくれます。検索に打ち込まず、音声だけしか使わなくなる日もそう遠くない未来です。

便利になることは悪いことではないと思います。ただし脳が発達する幼少期から児童期に関して言えば不便が能力形成にとっても役に立つこともあるのではないかと思います。教育現場にAIが入ることで便利な部分がある反面、教育だからこそあえて不便を求めることも必要なのではないかと思います。

授業をしたときに「何でこんなことやらなきゃいけないの。AIがやってくれるから必要ないじゃない」と思われてしまう日が来るかもしれません。